

【施設での看取り】

介護施設での看取りとは、利用者が穏やかで尊厳ある最期を迎えられるよう、医療・介護・精神面の支援を総合的に行うケアです。

看取りケアの基本

看取りケアは、回復が見込めない状態の利用者に対して、身体的・精神的苦痛を和らげながら、その人らしい最期を支えるケアです。延命を目的とせず、残された時間を尊厳を保ちながら過ごせるよう支援することが目標です。医師・看護師・介護職員・相談員・管理栄養士などが連携し、利用者と家族の意思を中心にしたチームアプローチが求められます。

介護職の役割

介護職は、日常生活の援助（体位変換、口腔ケア、清拭、排泄介助など）に加え、傾聴や寄り添い、家族への声かけなど精神的サポートも担います。医療的判断は医師や看護師が行いますが、介護職は利用者の様子や希望を医療職に伝える「橋渡し役」として重要です。

看取りの流れ

介護施設での看取りは、通常以下の段階で進行します：

1. **適応期**：施設に慣れ、生活リズムを安定させる時期。
2. **安定期**：身体的・精神的に安定している時期。希望や方針を確認。
3. **不安期**：体調変化や症状の進行に応じてケアを調整。
4. **終末期**：医療・介護・精神面の支援を強化し、穏やかな最期を支援。
5. **看取り期**：最期の時間を尊厳ある形で過ごせるよう、家族と連携して見守る。

医療との連携と ACP

看取りケアでは、胃ろうや人工呼吸器などの医療的処置をどこまで行うかは、利用者本人の意思、家族の希望、医師の判断に基づき決定されます。将来の意思決定に備え、**アドバンス・ケア・プランニング(ACP)**を行い、本人の価値観や希望を共有しておくことが重要です。

施設での看取りのメリット

- ・ **医療体制の安心感**: 医師や看護師が常駐または連携しており、痛みや不安の緩和が迅速に行われます。
- ・ **家族の負担軽減**: 食事・排泄・体位変換などの介護を専門職が 24 時間体制で行うため、家族は安心して見守ることができます。
- ・ **尊厳ある最期の実現**: 無理な延命治療を行わず、利用者が穏やかに過ごせる環境を提供します。

まとめ

介護施設での看取りは、利用者が尊厳を保ちながら穏やかに最期を迎えるための重要なケアです。介護職は日常生活支援と精神的サポートを担い、医療職と連携してチームで支援します。家族もケアの過程に参加し、ACP を通じて希望を共有することで、安心して最期を見守ることが可能です。

※アドバンス・ケア・プランニング：人生会議

栃木ケアーズひらいでの取り組み

- ・ 必要な点滴の実施（水分補給程度）
- ・ 酸素療法
- ・ 面会は自由となり時間や人数制限、時間制限は設けない